



# 金子新聞販売選挙特報

平成31年4月21日執行 即日開票  
発行責任者 金子 眞也

## 矢巾町長選挙

※現職の高橋昌造氏のほかに立候補の届け出がないため無投票で再選



### 当 高橋昌造 73 無現②

前回 9,297 票

【略歴】99年、矢巾町助役。07年、県議会議員に初当選。15年、町長選に出馬し初当選。盛岡市出身。

## 矢巾町議会議員選挙 (定数 18人 / 立候補者 20人) ○印の数字は当選回数

	当 901票 小笠原 佳子 58 公新① 南矢幅		当 606票 山崎 道夫 71 無現④ 又兵工新田 前回 634票・前々回 645票・その前 704票
	当 811票 小川 文子 66 共現④ 南矢幅 前回 1,024票・前々回 826票・その前 1,045票		当 600票 水本 淳一 65 無現② 太田 前回 669票
	当 797票 村松 信一 70 無現③ 白沢		当 599票 藤原 信悦 65 無新① 間野々 .205
	当 743票 藤原 梅昭 68 無現③ 南矢幅 .495 前回 655票・前々回 997票		当 588票 長谷川 和男 81 無現⑥ 又兵工新田 前回 769票・前々回 678票・その前 772票
	当 674票 高橋 安子 68 無現② 煙山 .622 前回 763票		当 569票 赤丸 秀雄 66 無現② 又兵工新田 前回 550票
	当 649票 谷上 知子 70 無新① 高田		当 563票 廣田 清実 59 無現② 南矢幅 .439 前回 741票
	当 645票 藤原 由巳 70 無現④ 西徳田 .298 前回 603票・前々回 633票・その前 720票		当 427票 吉田 喜博 65 無新① 白沢
	当 610票 廣田 光男 72 無現④ 北伝法寺 .560 前回 617票・前々回 681票・その前 680票		当 409票 高橋 七郎 70 無現⑤ 和味 .377 前回 476票・前々回 443票・その前 581票
	当 608票 川村 よし子 66 共現⑥ 又兵工新田 前回 742票・前々回 585票・その前 661票		次 387票 佐々木 暢宏 37 無新 白沢
	当 607票 昆 秀一 54 無現③ 高田 前回 800票・前々回 613票		次 313票 木村 豊 62 無新 広宮沢

有権者数 22,386人、投票総数 12,227票、投票率 54.62%、有効投票 12,109票(内、3票分が按分点数)、無効投票 118票、不受理・持ち帰り 0票

### 投票所別投票数と投票率(町議会議員)

投票所	有権者数	投票者数	棄権者数	投票率	投票所	有権者数	投票者数	棄権者数	投票率	
高田コミュニティセンターホール	男	1,822	732	1,090	40.18%	不来方高校	男	1,739	737	42.38%
	女	2,031	892	1,139	43.92%		女	1,955	829	42.40%
	計	3,853	1,624	2,229	42.15%		計	3,694	1,566	42.39%
徳田小運動場	男	1,693	748	945	44.18%	矢巾町役場1階市民ホール	男	2,016	840	41.67%
	女	1,894	833	1,061	43.98%		女	2,205	921	41.77%
	計	3,587	1,581	2,006	44.08%		計	4,221	1,761	41.72%
矢巾勤労者共同福祉センター多目的室	男	1,122	468	654	41.71%	矢巾町農村環境改善センター多目的ホール	男	1,050	597	56.86%
	女	1,184	476	708	40.20%		女	1,186	639	53.88%
	計	2,306	944	1,362	40.94%		計	2,236	1,236	55.28%
矢巾北中学校校場	男	1,162	567	595	48.80%	計	男	10,604	5,685	53.61%
	女	1,327	612	715	46.12%		女	11,782	6,542	55.53%
	計	2,489	1,179	1,310	47.37%		計	22,386	12,227	54.62%

前回 (H27. 4.26) の投票率 67.52%  
前々回 (H23. 4.24) の投票率 58.38%  
その前 (H19. 4.22) の投票率 66.99%

※誠に勝手ではありますが、「金子新聞販売選挙特報」は、本年の本号を持って「無料新聞折込配布サービス」を終了させていただきます。全国新聞販売店でも弊社だけの付加価値サービスを通じて地域民度向上の担い手として努めて参りましたが、スピーディーで情報過多の現代において1952年(昭和27年)から67年に亘り発行して参りました付加価値サービスの使命は十分果たすことが出来たと鑑みます。今後は時代の潮流に求められる新たなサービスを開発し地域民度向上に貢献して参りたいと考えております。弊社より新聞をご購読の皆様が、弊社独自サービスによって少しでも豊かに感じていただけたなら幸いです。